

## 大学院への招待

### 白鷗大学大学院経営学研究科の教育の在り方

森 本 三 男

Invitation to Graduate Schools

Practical Education in Hakuoh Graduate School

Mitsuo Morimoto

この研究科は、経営に関する高度専門職業人の育成を目的とする修士課程（2年間）である。そこでは、経営に関する高度の専門的な知識と技能を身につけ、将来、ビジネスの世界で活躍することを前提にした実践的教育を実施する。在来の研究者育成を目的とする大学院（典型的には博士課程＝5年制）とは別に、このような課程が必要とされる社会経済的理由は、次のような諸点にある。

- (1) 産業経済の実態が複雑化・高度化・専門化・情報化・国際化・機動化して、従来の学部レベルの知識と技能では十分に対応できなくなった。
- (2) 環境変化が加速して、知識と技能の劣化・陳腐化が早くなり、学際化が進行して、再教育による知識と能力をリフレッシュする必要が、急速に高まった。

- (3) 豊さの向上により、従来の専門に加えた自己の知識・技能の拡張によるキャリア開発、または新しい問題意識に対処する知識・技能の獲得、さらに自己の教養や人格の向上への挑戦意欲が、極めて大きくなった。

これらのうち、後の2つは、どちらかと言えば既卒の社会人の場合である。この研究科では、昼夜開講制のような社会人向けのシステムは採用してはいないが、意欲的な社会人の入学を歓迎する。(3)は、社会人だけでなく、経営学関連学部以外の卒業生にも門戸が開かれていることを意味する。ただ、全体の重点は(1)にあり、経営学関連学部卒業生の直接入学を主たる対象に想定している。そこで、課程の構成と運営に次のような配慮をしている。

- (1) 社会経験がない者に実践的教育を施し、2年間に修士論文に結実させるため、きめ細かい研究指導体制をとる。具体的には、指導教員を中心とした複数指導方式をとり、通常の2倍の単位を研究指導に配分する。
- (2) 一定の資格取得を志す者に対する支援はするが、資格取得の予備校に陥ることのないようにする。
- (3) この研究科の学習課程で研究者への関心が高まった者に対しては、相応の指導をする。

教育の本質は、自己啓発（self-development）である。意欲に燃えた能力の高い学生の積極的取り組みを期待している。大学院担当教員は、彼らに暖かい支援と指導を惜しみ無く傾注するであろう。

（本稿は白鷗新聞第44号、1998年11月12日発行に掲載された森本三男先生の「将来 ビジネス界で活躍できるような実践的教育を実施する」と題された文章を、先生にご許可頂きそのまま転載したものである。 論集編集委員会）

（本学経営学研究科長（予定）・青山学院大学教授）